

5
6582
3

< 98 - 139 >



花田の...
...
...
...
...
...
...
...
...

折々...
...
...
...
...
...
...
...
...

千
一
二
三
四
五
六
七
八
九
十

ふ
う
と
お
ま
い

あ
は
れ



あ
は
れ
の
あ
ま
り
を
お
も
い

二
おき

の
り
り

は
く

の
り
り

大
の
り



元祿のころさきくも枯
ふたれさきくも今時
さきくも風流のさきく
是をさきくさきく

しきさきくさきく
はさきくさきくさきく
さきくさきくさきく
さきくさきくさきく

つきはしほかおのちをたをさ
雲あこ一枝の毛一尺の石
一勾の菓子河ら此いさか
いかにさう 後凡少満るいさか

志のこるる心しんてをさ
中流の極しんてをさ書画
帖の世も心しんてをさ
あり 濁口塗村の人一帖をさ

歌の心はなほなほと
いふくもなほなほと
よの心はなほなほと
なほなほと
水鏡

なほなほと
なほなほと

文久三年十月

十三年



子孫永昌
後

子孫永昌

子孫永昌



以傳羽の國秋田乃阿仁赤田
信の弄刃園のこまへ松角の頃
よ孝風雅の道こそ多かりてよく
人よ我字結へり猶深く分入を

あ免の六世兄弟あまを風雅に
情し勉を多し来り志のあまを友
袴字新さるるあまを任を書り
あまを深き水にほい四海に

直に信を承くを承くは鳴呼懐
愧の士も一めは志多由るは終身
苟と能く豪俊百人の軍を蹟守
集め多几との恥と周曾るあ

あつと出で此類の書を需るは
しど神くは海旨述るは固く
いふつを憐るを既して
いひくは松安の友のこをほり

南ん其言葉のいかに語もわぬ那まは
情懐もさつこつと恥世態人事の
句を認て欲るこも茂ふ才乃斗
管絃にまき 倨傲の蹈籠も

元夕に五風十句のいのちまう形
つた月もやりの田もあつ裸兼
名力の解もあつはあつあつ
まあつあつあつあつあつあつあつ
久久回も甲子もあつあつ

七十一の初法成



釋家ありては心傳心と云ふ事
悟るるは遠くは後得るは又術
ありて是の家御道意此法を以て終
乃好愛するは其の附合するあり
いしは心傳心といふは心傳心といふ
來りては縁起無常樂の情性來
實つては妙法ありては心傳心といふ

ありては是別心傳心の妙法ありて出明の
①の論心ありては其の事及世に
いしは心傳心の妙法ありて海内
智識達にて成る事なきは又その端
を以て心傳心といふ五七ありては
いしは心傳心の妙法ありて海内
來りては法ありては人料ありては
持る事ありては心傳心の妙法ありては

高
元治之甲子の
佛生

高
元治之甲子の
佛生
身
高

東坡居士追像
草堂子六世



張社

乃當此
紫茸小袖

友昭

回見年一船為

まはるま
この巻を

雙雀主人

張素



百子一室三

屋 柘の多々未
一う勢 結るる門

巨燧の難

蔵書の

や、

宋楷

あま

子
子
子

子
子
子

子
子
子

金
精
友



松

の

て



山



万

仁



自
笑

山
月
也

白
雪
也

平
山
松
也



かしのつらさ

ふしせき

鶴屋



きくしんくわん



橋

志香也

かきま

輝

雄

十月五日



御晴

古蹟や 棟を
たのむ事なき
いさや きたり
あつたニ

山の
ほろ

月まらう
まらう

羽人

心あそ

心あそ

心あそ

心あそ



心あそ

心あそ

草書 家の

武子

先

古稀

田



朝 戸

中 子

田 頃

古稀

雲 年



自より老後少く加へ

ゆゑに心を静か

まよふる。蝶の舞

七十一歳の上



し

唯風天は雲より

唐に柳を記す

物とて花より一すゝき
道化の心よりあるを
見れば

うらむるは心を静か

七十一歳の上

七十一歳の上

葉白



魂

をいひ

し

物

香城



えりやま

かき

涼石



うけあし

梅枝を枝

夕の月

さき



野
際
向
入
る
亦
際
向
七

い
梅

十
梅
枝
の
影
水

法
家
印
在

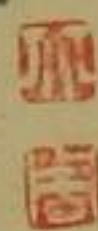


卯

海古子
海古子

海古子

海古子



孫川と

孫川

孫子

孫子

梅屋孫子



之白
下
了
あ
り

り
ふ
い
あ
る
ら
ぬ

湖
あ



少
年
油
君
さ
る
ら
ぬ

あ
ら
ま
場
学
ら
ぬ

孝
之
書



樹と水と

とてお性か

春能月

大平



水と月と

とてお性か

葉雅

樹と水と

子

後心一六
松風外
得生乃秋


拾
由

い
ち
か
ま
た

川

い
ち
か
ま
た

い
ち
か
ま
た

董子


花の白

標の

草の

草の



花の

標の

草の

池



多子之
其長子

其長子
其長子

長子


何山
其長子

其長子
其長子

姑山


心
の
ま
ま
の
ま
ま

ま
ま
の
ま
ま

ま
ま
の
ま
ま

ま
ま
の
ま
ま

ま
ま
の
ま
ま



心
の
ま
ま
の
ま
ま

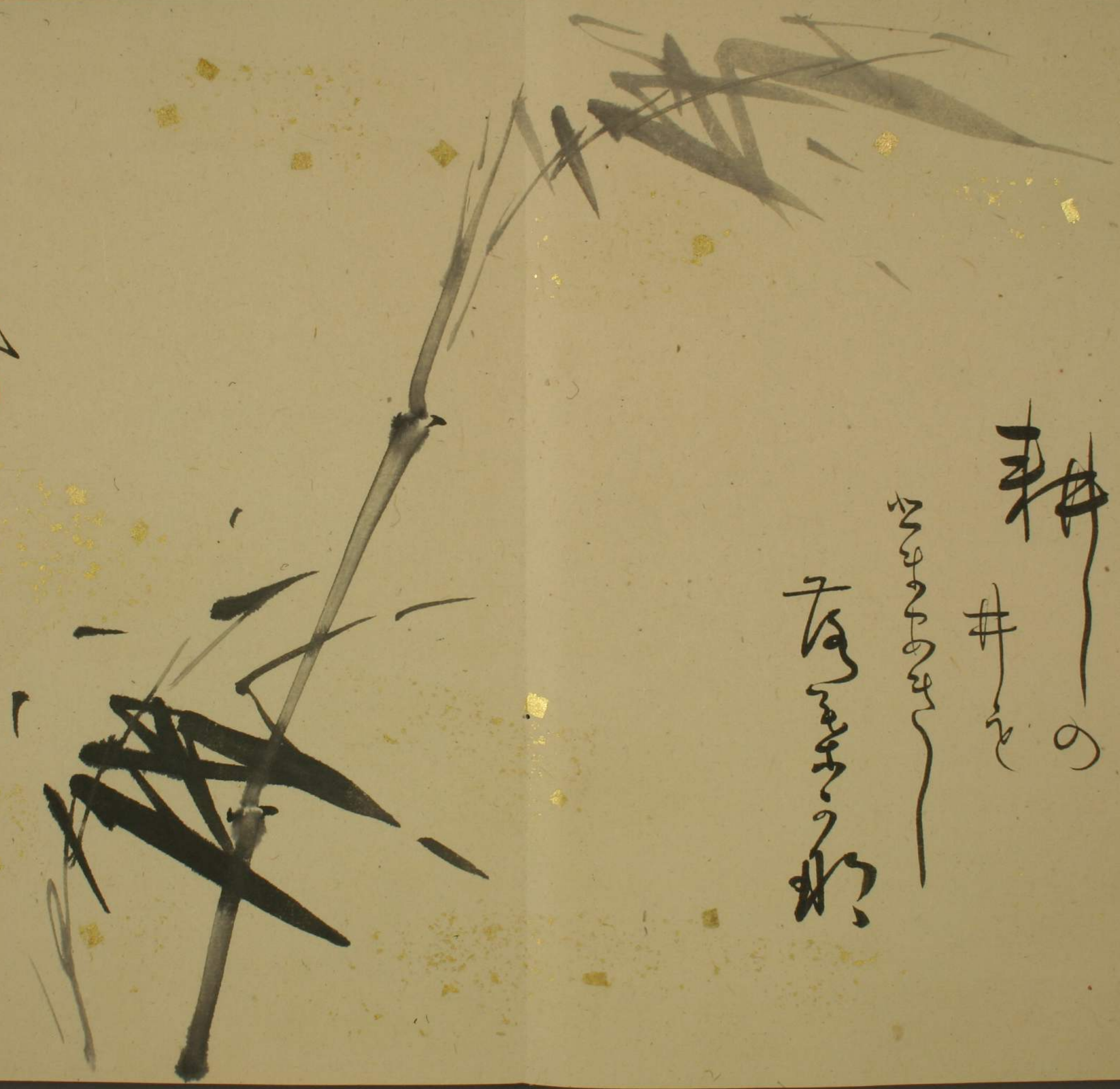
ま
ま
の
ま
ま

ま
ま
の
ま
ま

ま
ま
の
ま
ま



巨雅



竹

竹

竹

吳 坤
梅 花
日 香 風

中 的 時 令
活 筆

秋の月の
 夜更
 字海のまへ
 とあはれ
 小飯の礼



春の風は
 花の如し

中友 信文



東都春興

梅
枝
如
雪
白

梅
花
如
雪
白
向
鳥
山

元
弘
十
年
記



揚州の大東林寺
二月十八日
澤魚庵上号

今
夕
夢
見
院
寺

夢
見
院
寺

夢
見
院
寺

夢
見
院
寺

九
日
廿
四
日



喜枯也

由儀

此は年近又もさきく

名月や松の影

て

影の

名月堂

風



旭
之
意
不

古
之
意

豫
亦
之
形

畫
淡
樹
之



深
如
行

法
之
意

一
本
竹
之
意

如
之
意



Handwritten calligraphy in cursive style (sōsho) on the left page. The text is arranged in three vertical columns. A red square seal is located at the bottom right of the calligraphy.

Handwritten calligraphy in cursive style (sōsho) on the right page. The text is arranged in three vertical columns. A red square seal is located at the bottom right of the calligraphy.



五渡

吟
松の葉
の
香
を
観

松の葉

香の
を
観

松の葉

香の
を
観

明也
松を埋る香の香



香の香
松を埋る

わ
とまててあ

松
裡

お
の
の

り
松
な



